

2019.02.09.「大学生等の力を活用した集落復興支援事業」活動報告会

# 「中山間地域農業参画プロジェクト」 —二本松市東和地区西谷集落での 農業実践と地域づくり参画の取り組み—



国土舘大学文学部地理・環境コース  
宮地ゼミナール 鈴木裕太・久保秀平

# 1. 「中山間地域農業参画プロジェクト」とは

## 目的

- ・中山間地域農業、農村の現状の理解を深める
- ・農業体験・農村での生活を体験しながら交流を深める

## 経緯

- ・震災前から、耕作放棄地が拡大している地域
  - ・中山間地域等直接支払制度 交付地域、  
集落活性化の取り組みが模索されている地域
- 2009年度からプロジェクトを実施(今年度で10年目)

## 2. 西谷集落の概要

総面積：約231.3ha

※田：約25.9ha

畑：約52.8ha

山林：約116.1ha

耕作放棄地：約23.7ha

人口：134人

(男性68人・女性66人)

世帯数：38世帯

※集落の高齢化率 33.6%



### 3. 私たちの活動内容（2018年度）

5月：田植え、住吉神社 祈禱祭、  
交流会（学生：9名）

7月：草刈り、東和ロードレース大会参加  
（10名）

8月：草取り、夏祭り（5名）

9月：稲刈り、学園祭のメニュー試作会  
西谷地域づくりワークショップ（13名）

11月：学園祭での農産物販売（16名）  
（米、焼きおにぎり  
ざくざく煮しめ、いかにんじん）

3月：検討会



# 11月 お米の販売

## 学園祭での呼びかけ

### SNSでの広報活動



📣今年もやってきました！米販売🌾

大学のゼミで行っている「福島プロジェクト(中山間地域農業参画プロジェクト)」では、今年の9月に稲刈りを終え、無事、昨日の楓門祭にて焼きおにぎり、お米の量り売りを終えることが出来ました。

この楓門祭で多くの方に「二本松市西谷集落」という名前を知ってもらうことが出来たこと、お米の他にも「いかにんじん」や「ざくざく小煮しめ」といった福島県の郷土料理を御来場頂いた方々に知ってもらい、食べてもらったこと、また、おかわりまでしていただいた方もいたこと、とても嬉しかったです😊🎵

さてさて本題ですが、楓門祭を持ちまして、福島プロジェクトで作ったお米は残り約300kgとなりました。そこで、今年もこの場をお借りして、私たちのゼミで作ったお米の宣伝・販売をさせていただきます！！

価格は昨年同様、1kg500円で販売させていただきます。私たちのゼミは今年度で終わり、私たちと西谷集落の皆さんとの10年目の交流にも幕を閉じます。最後の最後のLOHAS米を、ご購入いただけないでしょうか？

(ゼミ生Facebookより)

## 🌾 成果と課題

- ・中山間での水稲作の苦労、重労働さ  
→耕作放棄地の拡大の一因

- ・米を生産、販売することの意義・難しさ  
→一定の価格をつけて  
販売することが重要



⇔ 取り組みの革新の必要性

- …参加者の輪を広げる、販路の拡大等

## 4. 昨年度の活動を踏まえて...

◎西谷集落が直面する課題を整理する一方で、地域の魅力や資源を再度調査しながら多世代にわたって取り組むことのできる地域づくりの方向性について双方向で検討する



西谷地域づくりワークショップ

# 5. 西谷地域づくりワークショップ (2018.9.16)

## 目的

・地域の魅力や地域の課題、  
地域課題に対する対応策について議論を  
していくもの

1. 地域(西谷・東和)の魅力発見
2. 地域の課題
3. 西谷のこれから





## 結果(自然)

- ・自然が豊かという言葉だけでは伝えきれない良さ
- ・馬洗川溪流の景観の良さ etc...

## 結果(人)

- ・住民同士の繋がりがや結束力
- ・集落の人々があたたかい etc...



## 6. ワークショップを通じて...

◎10年間取り組みを続けてきて、初めて地域の課題を(本当にまじめに)話し合っ、理解・共有することができた



- ①集落住民のつながり →  
主として稲作を通して維持されてきた
- ②水田農業をきちんと継承できる  
仕組みの構築が重要課題  
⇒ 適正価格での販路開拓



# 7. 今後の展望

- ・これまでの10年間で住民発案の花火大会が行われた。
- ・営農継承を考える担い手も多くはないが出現

## 課題

- ・「国士舘大学の西谷学校」は、今年度で最後となるが、卒業生が「関係人口」として、これからも交流を続けていけるかが重要な課題。

